
記憶の旅

たま

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶の旅

【Nコード】

N3656V

【作者名】

たま

【あらすじ】

《あの日 医師の宣告とともに

あたしの中の何かが音もなく崩れた気がした》

ゆびきりげんまん、

うそついたら

はりせんぼん

のーます

ゆびきった

ゆびきりげんまん うそついたら はりせんぼん のーます

ゆびきった！！

『絶対に約束破ったらダメだからね』

『うん。約束したもん！！』

ねえ、覚えてる？

あのときの約束、、

幼稚園の頃のことだったけど忘れちゃいけないことだった気がする
でも

もうあたしがその事を思い出すが見当たらないの
探しても探しても見当たらないの、、

ごめんね

本当にごめんね

もしもあなたが覚えていたのなら

何年先になるか分からないけど何も覚えていられなかったあたし
にあの時の約束を教えて

今は会えないけど会えたときにはあたしとの思い出を沢山、沢山
おしえてね

《あたしの記憶を、、貴方の記憶を、、

どこかに置いてきてしまったあたしに教えてください》

この日 あたしは 今までの生活にピリオドを打った

それは中学2年生の夏休み 夏の終わりを告げるように 蝉が一斉
に鳴き始めた日のこと

蝉が本当につるさいくらいに鳴いていた気がする

それと同時にあたしの頭の中に響くのは 目の前にいる 医師からのありえない宣告

いや、ありえなくはないか、、

きっとあたしはこの宣告を心のどこかで気づいていたのかもしれない

この症状が出てきたのはいつからだっただろうか、、
そうだ 中学2年へと学年が上がって少し経った頃だ

少しずつ、、

少しずつ、、 それでも確実にあたしの 記憶 はなくなっていくた

そのときは物忘れが酷いぐらいにしか感じていなかった

それでも時間とゆうものは残酷なもので時がたつにつれ1つずつ無くなっていくあたしの思い出

記憶が無くなっているのに気づいたのはアルバムなどの整理をしている時だった

1枚1枚めくってゆく、、

何これ？

いつこんなところに行ってたっけ？

思い出そうとした

でも昔のことを思い出そうとすると最近の出来事ばかりがよみがえる
そして1日に及ぶ頭痛が あたしの思考を止まらした

自分で気づいてしまった

あたしの中の何かが変だとも
でも 親には言わなかった

いや 言えなかった

この日からあたしは日記をつけた

でもその日記もすぐに意味をなくしてしまった
ついにあたしは1日の記憶をとどめることができなくなってしまっ
たのだ

でも気づいたときには遅くて

親に言った時にはすごく怒られた

なんで怒られたことを覚えているかって？

覚えているんじゃない

あたしは出来事出来事にメモをとるようにしたからだ

だから覚えている ではなく 昔の出来事を目で読んで頭にいれて
いるだけだ

その症状が出てから始めたことだから昔のことが書いてあるはずも
ないのだが

願ってしまう

もっと昔の出来事を と、、、

《あの日 医師の宣告とともに

あたしの中の何かが音もなく崩れた気がした》

（後書き）

元は、連載にしようとしていたのですがなんかありきたりな気がしてw

なので短編と言つ形で載せますが気が向いたときにでも連載を考えている作品です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3656v/>

記憶の旅

2011年10月6日08時10分発行